



小網代通信

発行：小網代ヨットクラブ
〒238-0225
神奈川県三浦市三崎町小網代
1385-18
編集：広報委員会
編集長：里吉美恵子
連絡先：office@koaziroyc.jp

Koaziro Yacht Club

2025年 7月号 VOL-325

2025. 7.10 発行

今月の内容

		ページ
連絡事項	(編集委員)	1
テイス4 小笠原レース参戦記 後編	(テイス4 児玉 萬平)	2~4

今後のイベント予定

- 7月 ハーバー清掃 : 7月 20日(日) 集合 8時30分 クラブハウス前 30分間
(6月予定延期のため) 各艇1名以上参加 周辺の清掃及びクラブハウス室内清掃
- 7月 KFR : 7月 20日(日) 相模湾オープンヨットレースと合同開催
(KFRだけの参加もエントリー方法が異なります。ホームページより帆走指示書を確認してください)
- 7月 総務委員会 : 7月 22日(火) 19:00~ ハイブリッド(品川でリアル会議とZoom会議)で実施
★★クルージング委員会より重要なお知らせ★★
7月 26~27日に初夏のクルージングを企画しておりましたが、今年の天気(特に気温と湿度)が過去より高いことが予測されるため、開催時期を秋(10月~11月)に順延することにいたしました。秋にご参加ください。

連絡事項

1. ハーバー管理・整備委員会及びクラブハウス委員会(都築委員長)より
テンダー置場からクラブハウス周辺の清掃作業は、6月に行う予定でしたが荒天のため順延としました。
変更日：7月 20日(日) 8時30分からの作業で30分間(クラブハウス内の清掃も行う予定)
終了後に艇の点呼を行います。 当日は、KFRが開催されますのでコミッティ担当艇は免除となります。
2. (仮称)小網代大橋に関する意見交換会開催
6月 22日(日) 10:30~12:20 出席人数 約40名
クラブハウス2階及びZOOMによるハイブリッド会議で行われました。最初に神奈川県とKYCの接触経過報告を行い、続いて出席者全員の意見交換が行なわれました。7月15日前後に交わされた意見他をホームページの会員専用メニュー内「議事録 委員会資料」ページに掲示いたします。
3. KYCレース委員会(原委員長)より
2025年後期より、ブイの廃止および新設ならびに運営艇の運用負荷を考慮し、レースコースの大幅な見直しを行いました。下記4ファイルをホームページの「RACE」にアップしましたので、レース参加艇は必ず確認をお願いいたします。
・公示 ・帆走指示書 ・コミッティ担当 ・コースマップ
4. 夏祭り 8月 30日(土) 開催
1艇：3,000円 参加者1名：1,000円となります。暑さ対策をしますのでご参加お待ちいたします。

テイス4 小笠原レース参戦記 後編

テイス4 児玉 萬平

八丈島沖はトラブルの巣

最初の夜は、予報通りSEの風25~30kt、最大35ktの風がフリートを襲った。まだ序盤、ここで無理することは無いので目標方位は気にせず、少しペアしてスピード重視で南下した。この三宅島から八丈島の南にかけての海域は魔の海域で、過去多くのレース艇がトラブルに直面し、深刻なダメージを受けた例が多い。今回も半分にあたる3艇がセールや乗員の損傷を被り足踏みすることになった。一方でトラブルを上手に避けて南下できた艇が順位を上げ、Thetis4も八丈島通過時点では2位についていた。

2日目27日未明、低気圧通過と共に風がNWに変化し、風速も徐々に落ちてきた。軽風帯に入って来たが、軽風域の縁を狙い西に出していたせいか10kt以下に落ちることはなかった。風向の振れが大きく、フライングジエノアかコード0かの選択が続き、気が休まらない。夜中から3日目28日の未明にかけて風向がS~SEに変化して行き、タックするかどうか迷うところだったが、方針通り軽風域の西側を南下する。そして夕方から夜間にかけて再び20kt超に吹き上がり始め、時に大雨と共に40kt手前まで吹き上がる、前線通過だ、No4(Heavy weather jib)をリーフしNo5としてやり過ごす。ジブリーフはわが艇のダブルハンドレース用の荒天技術だ。

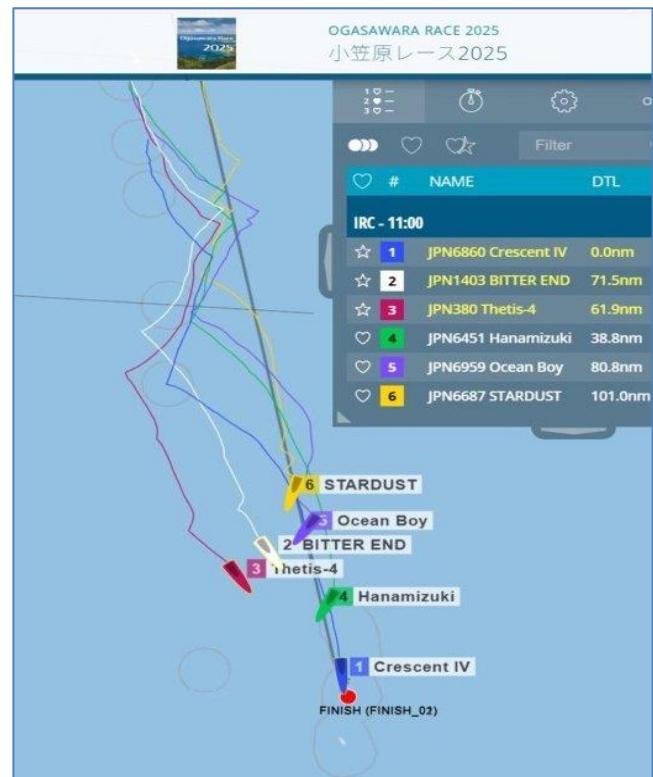
この前線通過の最中、オフショアーレース見習いによるヘルムスにあたり2回続けてワイルドタックを食らった。風上のセティーバースに寝ていた私は一瞬浮き上がり、そのまま風下のバースに向かって落ちて行った。ワッヂオフの伊藤君が寝ていて犠牲者(クッション代わり)になってくれなかつたら確実にあばらを骨折していただろう。これが2回続けて、さすがにヘルムス交代を怒鳴っていた。

3時間早くタックしていれば(タラレバ)

4日目29日未明、予想より早く風向がSWに変わり直接小笠原に針路を向けられるようになった。風が弱くなりA2Runnerを上げ、追走してくるBITTER ENDをかわすべく追い立てた。夜間に入てもA2⇒C0⇒フーリングジエノア⇒A3と目まぐるしくセールチェンジを繰り返す。

5日目30日Nの風、小笠原に近づいたのに案に反して寒い。そして明け方4時半父島二見浦にフィニッシュ。ファーストホーム艇Crescent IVに遅れること半日と知り、その圧倒的なスピードに驚く。そして2時間半後には

八丈島と八丈小島の間を通過



TracTracより

BITTER END がフィニッシュし修正で 2 位に入る、終始デッドヒートを交わした裕介君以下クルーの面々の元気長に頭が下がる。我々は 3 位確定。一番長い航跡を残してしまった。

我々のフィニッシュでは見ることが出来なかつたが、他艇の話では停泊中の海上保安庁の巡回船「みかづき」の電光掲示板に「500 マイルを越えて小笠原へようこそ、小笠原レース 2025」の文字が流れていたといふ。なんと粋な計らいではないか。完走し小笠原にたどり着いて本当に良かつたなあ、と感じる瞬間だったと思う。



フィニッシュ後差入して頂いたシャンパンで乾杯

体験乗船会・表彰式

他のレースでは見られない小笠原レースの特徴ある伝統の一つが島民との交流だ。島民体験乗船会、地元中学生の課外授業としての体験セーリングが企画され実行されてきた。前回大会では当時の海上保安署長の誤解による横やりのため直前に中止となり大騒ぎになった。今大会では、実行委員会メンバーによって事前に国交省、海上保安庁の担当部署との打ち合わせ、小笠原村や漁協、小笠原ヨットクラブ等関係部署とのすり合わせを行っていただい

中学生体験セーリング



たことで、前回の轍を踏むことなく渋りなく進めることができた。小笠原レース実行委員会 (KYC 前会長五十嵐さん、サーモンIV 飯島さん等が参加) はレースそのものの運営だけでなく、島民交流事業の推進についても大きな役割を担っている。我々は艇を出してセーリングするだけだが、多くの人がかかわるこうした事業の組み立ての努力には本当に頭が下がる思いがする。



表彰式もこのレースの特徴の一つだ、我々、500 マイルを走り切ったレースメンバーに対し島民の皆さんからは心からの歓迎の意を示してもらった。表彰式前後のスチールバンド演奏、ハワイアンダンス、小笠原太鼓の演奏等、はるばる島に来た者たちを歓迎する数々のアトラクションが用意され楽しい時を過ごした。優勝艇 Crescent IV のクルー一人一人の首には美しいレイがかけられ、本当にうれしそうな同艇のクルーの笑顔が印象的だった。そしてもう一つこのレースの特徴は、必ずと言っていいほど荒れ海、八丈島から南 350 マイルは避難できる場所が一つも無い、その海をしっかりと渡り切ってフィニッシュしたレース艇クルーを讃えることだ。今回から走り切ったクルー全員に完走者を示すリストバンドが授与された。そこには「Ogasawara Race2025 Finisher」と記されていた。

表彰式もこのレースの特徴の一つだ、我々、500 マイルを走り切ったレースメンバーに対し島民の皆さんからは心からの歓迎の意を示してもらった。表彰式前後のスチールバンド演奏、ハワイアンダンス、小笠原太鼓の演奏等、はるばる島に来た者たちを歓迎する数々のアトラクションが用意され楽しい時を



完走者リストバンド

Thetis-4 は 3 位



帰路

完走した 6 艇のうち 3 艇がエンジントラブルでサポート漁船に横抱きされて入港してきた。一艇はクラッチが入らず、次の艇はプロペラが回らず、3 艇目は異音がしてストップ…、1 艇は復旧したが、1 艇はクラッチギア破損、1 艇はプロペラブレードの脱落と結構深刻な事態となった。レースは完走できたが、帰路は更に大変な困難に直面し、修理してから帰るか、セーリングで本土まで帰るか、という難しい選択を迫られていた。夫々に解決策を考え対応することになったが何とか無事に戻ってきて欲しいものだ。

Thetis4 は 5 月 2 日、中学生の体験セーリングを終えてから直ぐに出航することにした。180 マイル先にある孀婦岩を見て帰ろうとすると翌日の日没前までにそこに着く必要がある。出航後、低気圧がちょうど真上を通過する予報だったが、追手なので大きくなりーフして走ることにし出航した。案の定、出航早々 40kt 超の風と大粒の雨にやられたが、順調に足を延ばすことが出来、何とか 5 月 3 日、日没前に到着することができた。海底から屹立する約 100m の独立岩、孀婦岩を回るのは 3 度目となる私だが、その荘厳さは何度見ても変わらない。クルー全員が思い思いに撮影しながら一周回るのだが、誰も一言もしゃべらない、畏敬の念にうたれた誰もが沈黙しかなかった。

前回は八丈島に寄港、温泉を楽しんで帰ったが、今回は寄らずに帰ることにした。風は前に回ることなく順調に艇を前に進めてくれたが、波は收まらず時々飛んで来るスプレーに乾きかけたオイルスキンもすぐ濡れる、そして日にさらされることを繰り返すうちオイルスキン自体が塩田状態となり、白くキラキラ光る塩が美しい、太平洋ブランドの塩だ。

そして 5 月 5 日、伊豆諸島の島々の間を巡りながら最後のレグを走る、晴天そして穏やか、潮は追い潮、旅の終わりにふさわしい快適なセーリングをエンジョイしながら午後 8 時 32 分小網代に入港、往復 1000 マイルの旅を終えた。

今回もまた、多くの KYC メンバーにお世話になった。実行委員のメンバーとして小笠原現地に赴きお世話をいただいた KYC 前会長五十嵐さん、外洋三浦会長としてスタートと艇長会議・前夜祭を主催頂いたサーモンIV 飯島さん、シャンパン・バー・ボン・お酒を差し入れて頂いた皆さん、スタートの見送りに艇を出して頂いた皆さん、多くのご支援を有難うございました。小笠原は厳しいけれど自然豊かな最高の島です、皆さんも是非、レースで無くても一度はヨットで向かってみませんか。



Thetis-4 小笠原レース 2025 成績：総合 3 位（着順 3 位）

所要時間：89 時間 41 分 30 秒（3 日間 17 時間 41 分 30 秒）